

おだがいさま

odagaisama

第20号
平成21年
1月15日発行



未来につなぐ 10年間の歴史



『鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま』は、障がい福祉の拠点として、障がい者やその家族などたくさんの方々の想いをのせて平成10年に鶴岡市が開設しました。

去る平成20年11月30日には、『10周年記念式典』を開催し、利用者の代表が「これからも仲間と協力しながら、仕事に粘り強く取り組んでいきたいです。」と抱負を述べたほか、式典後の『お祝いの会』ではステージ発表などで利用者・家族らと楽しみ、共に歩んだ10年間を祝いました。

新春企画 未来を担う子ども達のために
子ども達からのメッセージ(P2)

新春トーク(P3~P5)

身近なところで支え合い 住民福祉座談会(P6~P7)

情報掲示板(P8)

新春企画

おだがいさまのまちづくりを目指して

未来を担う子ども達のために

第一弾

子ども達からのメッセージ

あなたの思い描く理想の
「福祉のまち」を教えてください！

『笑顔があふれるまち』

『魔法の言葉』



藤島中学校
松浦 果菜さん

『一人ひとりが手助けを…』



山添高等学校
斎藤 加奈さん



大網小学校
遠藤 ゆいさん



私が思い描くまちは『思いやり』のあふれる温かいまち。登校時に交わす「おはよう」、下校時に交わす「こんばんは」はありきたりな言葉だけれど、言われて嬉しい温かい言葉。

そんな言葉があふれることで差別はなくなると思う。自分自身、あいさつがあることで相手から元気をもらったり、笑顔になれたりする。そんな時「あいさつは魔法の言葉だな」と思う。そんな『魔法の言葉』が広がっていくことで温かい福祉のまちになっていくのではないかと思う。

会うすべての人達へあいさつが飛び交うまちにならいいなあ。私はそんなまちをつくりたい。

鶴岡市にはまだ、いたる所に障がいを持つ人に『壁』があると私は思います。大型スーパーなどの青色駐車スペースに健常者の人が駐車をしたり、街中の歩道に段差があつたり、点字ブロックがごく一部にしかなかつたりなど、私は鶴岡市にはたくさんいろいろな『壁』があり、まだまだ周囲の人達の助けが必要だと思います。

しかし、市民一人ひとりが障がいを持つ人に手助けをすることで、障がい者が『壁』を感じることのない鶴岡のまちになる第一歩となるのではないかと思います。

私の住んでいる地域には、一人暮らしやお年よりだけで生活している家があります。お年よりが生まれ育った大好きなふる里に、いつまでも暮らせるようなまちにしたいと思います。私にできること①明るく笑顔であいさつをすれば②相手をやさしく思ひやるひと

一人だけでなく、みんなでやれば笑顔があふれるまちになると思います。

あなたの思い描く理想の
「福祉のまち」を教えてください！

『笑顔があふれるまち』

おだがいさま ②

新春トーク



村井 本日は、地域の子ども達と様々な形で関わられている方々からお集まりいただき、お話を伺おうと思っています。初めに、それぞれの活動について教えてください。

地域での活動

鈴木 ボーイスカウトは、子ども達が野外活動や奉仕活動をしながら自分を成長させていく団体で、全国にあります。ネッカチーフが目印で世界の子ども達と友達になれるんです。幼稚園年長組以上の年齢の子が入って活動しています。

広田 一人暮らしの高齢者の方を中心にお弁当を配っているのですが、温海地域五つの小学校から協力をしてもらって、お弁当の包装紙を子ども達から書いてもらっています。

上野 本職の農業の合間に、週二、三回、小学校の朝礼やクラブ活動で『黒川能』の謡、舞、歴史などを教えています。また、家でも毎日二時間ほど小学校四年生～中学生位までの子ども達に、能を教えています。

齋藤 保育園に勤務しながら、羽黒地区で子育てサポーターや三年前から障害児の遊びボランティアなどをしています。本当に子ども達が大好きです。

年頭のごあいさつ



「ふれあいサロンへの期待」

会長 富樫毅

明けましておめでとうございます。

市民の皆様にはバンジョーが奏でるあの名曲「世界は日の出を待っている」と同じ思いを巡らし新年を迎えたのではと拝察いたしております。

鶴岡市社会福祉協議会は合併から五年目を迎え、御陰様で事業内容は順調に推移いたしております。当協議会は、事業型社協の展開、地域福祉の推進、良質なサービスの提供、経営基盤の強化等に取り組み、使命を果たして参ります。

地域社会ではコミュニケーション意識の希薄化が進んでいます。このために自然に集まる昔の井戸端会議のように核となる「井戸」があればいいのになあと感じております。それが全社協、市社協で進めています「ふれあいサロン」ではないかと思うのです。サロンを運営しているのは町内会、老人クラブなど様々、活動内容もお茶のみ、奉仕活動、健康体操、子育てと活動内容や性格もバラエティに富むものです。住民がつくりあげた地域交流の場なのです。現在、鶴岡市では約一六〇ヶ所で運営されています。それぞれの地域で、多様なサロン活動が展開されていくことで、人と人との連帯し、サロン発の新たな活動が生まれていくことを期待するものであります。

市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

て他の園児と一緒に喜び合います。

子ども達に 伝えたい想い



上野 繁美 さん



齋藤 絵理 さん



鈴木 晃之助 さん

きなので、毎日が楽しく、充実した日々を過ごしています。

など、自然に思いやりの心が育つていくようです。

子どもとの関わりで 感じていること

村井 みなさんは、現在、地域の子ども達と関わって、どの様なことを感じながら活動してますか？

広田 本当に子どもが少なくなりましたね。ある地区では、一学年二三十人の子が約百個分のお弁当の包装紙を書いているので、一人から何枚も描いてもらっています。

上野 平成七年に師匠から引き継いで今まで続けてきましたが、毎年入ってくる子ども達の特徴は違います。個人を見ても、覚えの早い子・遅い子、気の短い子など様々です。学校では教えない部分を学ばせてほしいということでやっていますが、上手な子が覚えの遅い子に教え

なしなったと感じます。私達の六団の場合、十人の隊長がビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャーチー隊と、幼児～高校生までの子をそれぞれ分担して、歌やゲーム、ハイキングやキャンプ、募金活動やクリーナン作戦などをやっているのですが、入隊する子がなかなか少ないです。野外体験をするとどんどんたくましくなるのですが、惜しいです。

齋藤 保育園で〇～五歳までの子ども毎日関わっていますが、みんなとつとも自己主張が強いです。年齢ごとに主張の仕方も異なるし、自己主張することが苦手な子も当然いますが、特に小さい子は自己主張が激しく友達とぶつかることが多いので、私たちが入つていて、楽しい雰囲気をつくるように心がけています。

鈴木 小さい子ほど元気で自分を発揮する。そして、相手にでもらいたくて年齢の近い人を求めるね。上野 年寄りの私には、髪や鼻を引っ張つてイタズラをする子もいます。『三児の魂百まで』と言いますが、今は親への教育も一緒にに行いながら、やつて良いことと悪いことを区別できるよう小さいうちから教えることが大切だと思います。

鈴木 そういう点では異年齢の子ども集団だと助かることがありますよ。先輩格の子が注意してくれんんです。大人から叱られるよりも、注意される方も気楽だし、効き目もある。ただ、大人が叱る場合は子どもがショックで落ち込まないようあまり感情的にならないようにとは思います。

上野 私のところには、特別支援学級の子、他県から来てなかなか馴染めない子、いじめられている子も来ます。どの子にも必ず一つは他の人が真似できない特技や良さが備わっています。私は一人ひとりを見て良さを伸ばし、周りから信頼される子の立場の子にも手を差し伸べ、友達をたくさん作り、思いやりのある

村井 話を聞いて、指導する人の存在がとても大事だということ、接し方一つで子どもは変わるとということに気付かされました。では、子ども達に伝えたいことはありますか？

広田 包装紙に『風邪を引かないようにしてください』とか一言書いてくれる子がいます。昔と違つて三世代同居している家庭も少なくなつたので、子どもが書いた文字を見るだけで喜ぶ方が多いです。自分のやつたことが役立つていると感じることは、子どもにも良い影響を与えると思います。これからも思いやりの気持ちを忘れないでほしいです。

上野 私のところには、特別支援学級の子、他県から来てなかなか馴染めない子、いじめられている子も来ます。どの子にも必ず一つは他の人が真似できない特技や良さが備わっています。私は一人ひとりを見て良さを伸ばし、周りから信頼される子の立場の子にも手を差し伸べ、友達をたくさん作り、思いやりのある

子に育つてほしいと思っています。

齋藤 友達への思いやりは大切です。よね。やっぱりコミュニケーションをとらなければ人を思いやることはできないと思うので、まず大人である私が子ども達の話をよく聞いてあげようといつも考えています。

鈴木 とにかく仲間をたくさんつくってほしいです。そして、いじめを憎む正義感の強い子になつてほしい。

子どもにとつて最も大切な栄養は太陽と土と汗だと言われるのですが、子ども時代には家庭や学校、地域で野外活動を体験し、冒險心と我慢の力をたくわえながら育つてほしい。

去年の九月に、由良海岸で二泊三日の合同野外訓練会を若いリーダーを中心に行つたのですが、子ども達が将来社会生活をしていく上で協力や我慢体験の『場』がいっぱいあることを実感しました。

次世代に残したい 支え合う福祉のまち

村井 みんなの活動そのものが、思いやりの気持ちを育み、協力します。当協議会でも『おだがいさま』を理念に掲げていますが、大人同士

がその気持ちを持たないとやっぱり子ども達には伝わらないでしようね。

鈴木 子どもは大人同士のしぐさをこわいほどよく見ていると思います。

『ありがとう』を言い合う家庭の子は自然に『ありがとう』の習慣がつくと聞いたことがあります、こんな言葉の交わし合いが地域福祉の原点なのかもしれません。『ありがとう』同様『おだがいさま』『おかげさま』の言葉をもつと地域で交わし合いたいものです。

上野 やはり、地域の人が学校などに出向いたりして、子ども達にさまざまなことを教え、家庭だけでなく地域で子どもを育てていきたいですね。

齋藤 私自身もボランティア活動に参加し、純粹な子ども達と触れあう中で、言葉の使い方、人と関わることや思いやりの大切さなど多くのことを学びました。子ども達も積極的に地域行事やボランティアに参加してほしいです。

鈴木 奉仕活動に参加することも子ども達は関心があり、喜びますよね。この心は将来に残したいものの一つです。

村井 それぞれの役割を理解するこ

とが大切ですね。みんなが実践していること一つひとつがとても大事な活動で、一生懸命やっている姿が周りの人達へ影響を与えているのだと思います。一人で全部をやるこ

とは無理でも、互いの活動を認め合い、各分野で協力者を増やし、活動の場を数多くつくつてほしいです。

鈴木 協力者を増やすことの大切さ

は私達も強く感じています。ボーカルのネッカチーフ姿がもつと鶴岡の街に見られるよう頑張つてきたいと思います。

上野 これから、ボランティアとかサークルの仲間同士や団体間のつな

がりも強めていきたいですね。

齋藤 私自身もボランティア活動に参加し、純粹な子ども達と触れあう中で、言葉の使い方、人と関わることや思いやりの大切さなど多くのことを学びました。子ども達も積極的に地域行事やボランティアに参加してほしいです。

村井 団体であつても対個人であつても、他を理解し、認め合い、思いやりを持って接していく。鶴岡にはいろいろな人が住んでいて、いろいろな活動があるということを常に意識しながら、誰にとつても住みやすいまちにするため、みんなで支え合

う福祉のまちを、次世代を担う子ども達へ残していきたいですね。みんなの話を聞いて非常に勇気づけられました。

本日はありがとうございました。



広田 洋子 さん



司会 村井 勢一

広田 ボランティアは人のためと言つても、私は自分のためにやつてきたこともあります。活動に対する地域の方からの理解や周りの人の支えがあつたから、辛いとも思わずに十五年間続けることができました。いつかは自分のためになると思うので、子ども達からも、無理せず、自分ができることを続け、地域を支えてほしいなと思います。

とも、私は自分のためにやつてきたこともあります。活動に対する地域の方からの理解や周りの人の支えがあつたから、辛いとも思わずに十五年間続けることができました。いつかは自分のためになると思うので、

子ども達からも、無理せず、自分ができることを続け、地域を支えてほしいなと思います。

子ども達へ残していきたいですね。みんなの話を聞いて非常に勇気づけられました。

町内会 自治会

住民福祉座談会

身近なところで支え合い

少子高齢化が進む中で、町内会や自治会を基盤とした小地域福祉活動を推進するため、学区・地区社協や各福祉センターによる町内会・集落単位の『福祉座談会』が市内各地域で開催されています。

福祉座談会では、地域住民一人ひとりが地域の福祉課題や生活課題を自分自身の課題としてとらえ、その課題を共有し、多様化する住民ニーズの把握や地域住民が支え合う環境づくりの再確認、ボランティア活動や交流活動の支援のあり方などについて話し合いを行っています。

このように、地域の住民が福祉課題に気づき考えていくことで、地域の福祉力が高まっていくものと考えます。今後、鶴岡市社会福祉協議会では、各地域における福祉座談会を開催・支援し、住民主体による小地域福祉活動を推進していきます。

今回は、鶴岡市第四学区社会福祉協議会と羽黒福祉センターで行われた住民福祉座談会についてお伝えしていきます。

鶴岡市第四学区社会福祉協議会（齋藤榮三郎会長）では、各町内会で抱えている福祉課題を把握するため、

今年度、『福祉座談会』の開催を計画し、十二月までの間に学区内の全十町内会で実施されました。

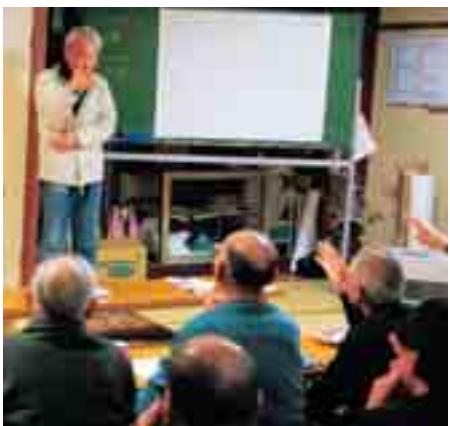
全ての座談会に参加された第四学区社協事務局長岩浪武司さんに伺つた座談会の概要をお伝えします。

第四学区で行っている『福祉座談会』では、全住民を参加対象としているべく多くの人が参加しやすいような場所や日時を設定して開催されています。座談会当日は、まず初めに参加者それぞれが自分の感じている町内の福祉課題を紙に書き、集約をした上、出された課題について話し合いを行うそうです。

岩浪さんによると「福祉課題はその町で異なりますが、多くの町内会に共通して、少子高齢化、除雪、ゴ

ミ出しのマナー、犬や猫のフン、町内会活動への参加者減少などについて、皆さんが問題意識を持つていることが分かりました。」とのこと。
問題意識を共有し、解決方法を探る中で支え合いが生まれることもあると言います。そのため、第四学区社協では、役員をコーディネーターとして派遣し、本音を出しやすい雰囲気づくりに努め、話をまとめながら、活発な意見交換が行われるための工夫をしています。

最後に「これから第四学区社協で、福祉課題の集約や分析を行いながら、住民のみなさんの力で問題を解決していくけるよう、今後の取り組みについて共に考えたいです。」と岩浪さんは語られました。座談会で出された意見を生かし、今後の更なる発展が期待されます。



岩浪さんは、座談会の途中にゲームなどを取り入れ場を和ませます。

各地域で行われた住民福祉座談会の様子



羽黒福祉センター
入江町集落



第四学区社協
青柳町内会



第四学区社協
八日町町内会



羽黒福祉センター
赤川集落

一方、羽黒福祉センターでは、住民自らが地域の福祉課題を考え、お互いに支え合う地域づくりを目指して、今年度から「小地域福祉活動基盤整備事業」を実施しています。座談会はその事業内容の一つとして羽黒地区内の八集落で実施されました。

座談会では、生活の基盤である集落で、地域での日頃の支え合いや災害時のことなどを住民の皆さんに考えていただきました。

今回は、松原町（山本興治区長）で行われた座談会の様子についてお伝えします。

雪のうっすら積もる11月の昼下がり、約30人の参加者で和やかに始まりました。座談会では、生活の基盤である集落で、地域での日頃の支え合いや災害時のことなどを住民の皆さんに考えていただきました。

震が起こった時、防災組織は機能するのか」との意見があり、防災組織の基礎をしっかりと固めることや、避難所の確保などを話し合い、住民みんなで見直す必要性を確認しました。

また今回は、座談会と同時に防災組織を作っていますが、「いざ地震が起こった時、防災組織は機能するのか」との意見があり、防災組織の基礎をしっかりと固めることや、避難所の確保などを話し合い、住民みんなで見直す必要性を確認しました。



雪のうっすら積もる11月の昼下がり、約30人の参加者で和やかに始まりました。

松原町の座談会では、大地震が発生した時（緊急時）の支え合い体制づくりを考えるため、震災時の自助・共助の必要性をテーマにしたビデオで研修を行った後、住民同士の意見交換を始めました。

今後も市内各地域で座談会を重ね、住民の皆さんがあれに課題に気づき、住民みんなで解決方法を考えていくことで、地域の福祉力がより強まっていくものと考えます。

i 情報掲示板

応援します！除雪ボランティア活動 小型除雪機・軽トラックをお貸しします。

町内会等で行う高齢者・障がい者宅の除雪ボランティア活動を応援するため小型除雪機・軽トラックの貸出を行います。(市内全域へ貸出いたします)



<鶴岡福祉センター>

●料 金 小型除雪機 1回につき200円
軽トラック 1回につき300円

●貸出期間 1回につき3日以内

●問 合 せ 鶴岡市ボランティアセンター
☎23-2970 FAX23-9110

<藤島福祉センター>

●料 金 小型除雪機 1回につき200円
※注 軽トラックの貸出は行っていません。

●貸出期間 1回につき2日以内

●問 合 せ 藤島福祉センター ☎64-3100

鶴岡地区福祉バスの予約方法が変わります

「旧鶴岡市福祉バス運営事業要綱」が改正され21年4月から適用されます。これに伴い、予約申込み方法も変更になります。抽選会の前に事前申請が必要になります。

●申請期間 平成21年2月1日～2月20日まで

●問 合 せ 詳細については鶴岡福祉センターまでご確認ください。☎24-0053

ボイスカウト山形連盟第16回 全国表彰を受ける

昭和47年以来、30年を越す長きにわたり社会奉仕の一環として『赤い羽根募金運動』の街頭募金などに協力を頂いていることに対して、11月7日、全国社会福祉大会の席上にて中央共同募金会会長より県内で唯一表彰を受けられました。



高齢者世帯への地震対策アドバイザー派遣

山形県では、高齢者のみの世帯を大規模地震から守るために、少ない経費で行う効果的な減災対策（部分補強など）をアドバイスする建築の専門家を派遣します。

●対象世帯 昭和56年以前に建築された65歳以上の高齢者世帯のみの住宅

●募集期間 平成21年2月28日まで

●問 合 せ 庄内総合支庁建築課☎66-5641
または市町村の建築を取り扱う課

不要になったシュレッダーありませんか

紙パックを裁断できるシュレッダー（大型ならなお良い）を探しています。下記までご一報ください。

作業所月山 ☎24-8541 Fax24-8582

○○ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。

(平成20年10月21日から平成20年12月20日までの寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター

八沢会 様 50,000円

(有)ハーバーコーポレーション 様 8,000円

田川建設労働組合 鶴岡大工支部 様 20,000円

匿名 100,000円

鶴岡市立荘内看護専門学校 看学祭 様 5,000円

武山 育 様 30,000円

真如苑山形支部 様 500,000円

(株)荘内日報社 様 100,000円

◎藤島福祉センター

曹洞宗山形県第三宗務所 様 50,000円

藤島民謡会 様

20,000円

◎羽黒福祉センター

田川建設労働組合羽黒支部 様 9,700円

◎柳引福祉センター

鈴木 庄一 様 車椅子（クッション付）

★鶴岡市中央児童館へ

佐藤 米吉 様 庄内柿コンテナ4箱

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ

清野 均 様 柿8ケース

成澤農園 様 柿20個入り10箱

★高齢者福祉センターおおやまへ

阿部 裕三 様

30,000円

★鶴岡市老人福祉センターへ

小山 武雄 様

掛軸

★くしひきディサービスセンター・ くしひき保育園へ

(株)産直あぐり 様

手作りジュース（柿50本・りんご50本・ラ・フランス50本）

度のしぶとさで行こう
ではないか。
(H.S.)

てねつちり精を出し適
年は何事にも落ち着
ではないか。

それはさておき、今
とある。周りの丑年生
まれを見ると成る程と
頷ける。

十二支の唄に「丑は心
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ」
とあります。周りの丑年生
とある。周りの丑年生
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ

く、まして新年の挨拶はして
もされても気持ちが良
く、「今年も頑張るぞ」
と言ふ気持ちにさせて
くれます。さて、今年は丑年。
十二支の唄に「丑は心
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ」
とあります。周りの丑年生
とある。周りの丑年生
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ

とあります。周りの丑年生
とある。周りの丑年生
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ

とあります。周りの丑年生
とある。周りの丑年生
が落ちつい、ねつち
り仕事に精出すがしぶ
とい根性が玉にキズ

c ほっとコラム

おだがいさま

第20号

平成21年1月15日発行

発行部数 49,500部

編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市西新斎町14-26

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

柳引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。



おだがいさま 8